

江別第一中学校 学校だより

# 純誠



## 教育目標

- ・自ら進んで学び未来を創造する生徒
- ・豊かな心を持ち互いに協力して生活をもつ生徒
- ・強い意志と体力を持ち、進んで努力する生徒

令和2年11月30日号 第12号

## 師走の風景から

江別市立江別第一中学校  
校長 新田 元 紀

### ◎ 師走

いつもはどっしりとお経を読むお坊さんでさえ、せわしなく走り回らなければならないとされる月、12月。教員も「師」と呼ばれますから、この時期は冬休み前の一仕事（成績処理や進路業務、その他諸々）が残っています。「まさしく師走！」と思いつつせわしなく働くのが通常です。

働き方改革とは言っても、江別一中の先生方は今年もやっぱり「師走」なのでしょう。

「師早歩」ぐらいにしてあげたいとは思っているのですが……。

### ◎ 師走の風景

人混みの繁華街や活気にあふれる商店街に向いたり、テレビ映像で見たりする度に「せわしない師走」感じてきました。でも、このせわしなさは「元気」そのものですし、新年を迎える「喜び」につながるものです。

そして……またしても「今年は……」と書かなければならないことに憂鬱を感じます……。

今年は、そんな風景も変わりそうです。札幌市の新型コロナウイルス感染症の警戒ステージが「4」相当に上げられました。密を避けなければなりませんので、人混みの繁華街も活気にあふれる商店街も許されません……。

……でも、私自身、江別に住んで25年、お世話になってきたお店もあります。どのお店もステージが上がる前から相当に苦しんでいます。「頑張っ！」と言うだけなら簡単ですが、お店にとってありがたいのは、声援より売上金でしょう。小さな焼き鳥屋さんを営み生計を立

てている教え子もいます。お店の経営は「命」そのものです。お店を応援するということも考えていなければならないと思っています。

### ◎ 最適解

この新型の感染症にどう立ち向かうのか？

おそらく今の段階では「正解」はないのでしょう。「自粛を徹底せよ！」と、「経済を回せ！」の二者択一では「正解」になり得ません。

もし、どちらかを「正解」としてお互いの立場で声高に叫ぶ世の中であるなら、それは不健全な社会だと言わざるを得ません。

このコロナ禍の社会において、まさしく「答えのない問いに答える力」が試されているのだと思います。情報に流されず吟味し、よく考え、その時々にはふさわしい「解（答）」を求めていく。

そこには「正解」はありません。「最適な解（よりふさわしい答）」があるだけです。

### ◎ 「深い学び」

クイズの答になるような「知識」は、パソコンのキーボードやスマホの画面を叩くだけで手に入れられる時代になりました。

社会状況に合わせて教育は変化します。大量の知識を詰め込み、それを吐き出すスピードを争うような時代もありました。しかし、今、知識は簡単に手に入りますから「深い学び」です。

生徒1人に1台のタブレット型パソコン配付も、いわゆる「主体的で対話的な深い学び」のためにあります。

### ◎ 知識はいらないのか？

もちろん基礎的基本的な知識がなければ、深い学びにはたどり着けません。

また、読書や実際に行動することなどで深い知識、あるいは広い知識を得てTPOに応じて上手に披露する。そんな人が「教養のある人」として尊敬を得ているような気がします。